32

公益財団法人日本交通公社
旅の図書館
LIBRARY OF TOURISM CULTURE

公益財団法人日本交通公社 旅の図書館 LIBRARY OF TOURISM CULTURE

# 観光と図書館

## 地域の観光に図書館はどう寄与できるか

近年の図書館（特に地域の公共図書館）には、様々な地域の課題解決や地域住民にとっての第三の居場所（サードプレイス）などの役割も期待され、地域の再生・活性化に欠かせない存在として注目されつつあります。では、観光地や観光振興に取り組む地域にとって、図書館とはどういう存在なのでしょうか？そもそも社会教育施設であり地域住民を利用対象とする公共図書館では、基本的に観光客は利用者として想定されていません。多くの観光客の来訪によって成り立っている観光地においては、地域住民と同様に、観光客も図書館の重要な利用者として意識されてもよいと私たちは考えます。図書館を地域の観光魅力づくり、観光振興に活かしている事例から、図書館と観光の連携・融合の可能性を探ります。

## 変わりつつある図書館

わが国の公共図書館は、1990年代まで、図書の貸し出しを重視して普及・発展してきました。2000年代に入ると、指定管理者制度の導入や図書館の新たな役割や可能性を示唆した『未来をつくる図書館』の刊行などを機に、地域の課題解決やビジネス支援を行う図書館などが登場してきます。さらに近年、図書館は施設・運営サービス両面でより多様化しつつあり、まちづくりの中核施設として重要な役割を果たすようになってきています。

### わが国の図書館の歩み

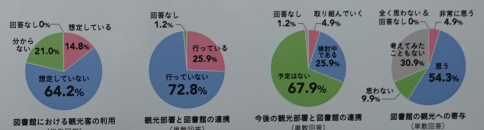
- **1870年代**
  近代図書館の誕生
- **1900年代**
  **1918**（大正7）
  和田萬吉『東京帝国大学図書館長』「旅客の為めに図書館」掲載（機関誌『ツーリスト』）
- **1950年代**
  **1950**（昭和25）
  図書館法公布
  **1954**（昭和29）
  南益行「観光図書館論」掲載（『図書館界』）
- **1960年代**
  **1963**（昭和38）
  『中小都市における公共図書館の運営（中小レポート）』発表（公共図書館の本質的な機能＝資料提供・郷外奉仕）

  貸出を中心とした公共図書館の普及・発展
- **1970年代**
  **1970**（昭和45）
  『市民の図書館』発表（市民調査・見重サービス・全域サービスを重視）
  **1979**（昭和54）
  『図書館の自由に関する宣言』改訂
- **1980年代**
  国や自治体による行財政改革が進行
- **1987**（昭和62）
  『公立図書館の任務と目標』発表
- **1988**（昭和63）
  『新しい時代に向けての公共図書館の在り方について』（近年における文科省の図書館行政の出発点）
- **1990年代**
  **1990年代後半～**
  インターネットの普及
  **1999**（平成11）
  図書館法改正

  課題解決型、ビジネス支援型図書館の登場
- **2000年代**
  **2001**（平成13）
  『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』発表（国による基準を示す）
  **2003**（平成15）
  指定管理者制度の導入／『未来をつくる図書館』刊行
  **2006**（平成18）
  『これからの図書館像』発表（新たな図書館のあり方を提言／図書館の課題解決支援の機能を提示）
  **2008**（平成20）
  図書館法改正
- **2010年代**
  図書館の多様化
  専門化・ヤング・アレゲ・ティンエイジ・ビジネス・医療・福祉
  **2012**（平成24）
  『公図書館の設置及び運営上の望ましい基準』発表（図書館の課題解決支援の機能を提示）
  **2014**（平成26）
  『つながる図書館』刊行

## まだ観光と結びついていない図書館

現状では、観光行政において図書館が施策のなかで意識されることは少なく、図書館が地域の観光とほとんど結びついていないのが実情です。




図書館における観光客の利用（単数回答）　観光部署と図書館の連携（単数回答）　今後の観光部署と図書館の連携（単数回答）　図書館の観光への寄与（単数回答）

全国の自治体の観光部署を対象に（公財）日本交通公社が2019年7月に実施した「観光と図書館に関するアンケート調査（81団体回答）」より

# 観光まちづくりに図書館を活かすために

図書館は地域文化の根幹を支え、「資料」と「人」そして「地域」をつなぐ重要な役割を担っています。
観光との親和性を活かし、図書館と観光がより効果的に連携・融合を図ることは、地域の観光魅力の発信やまちづくりに大きく寄与します。

### 1 観光客も含めて、誰もが足を運べるフラットな場所に

公共施設の中で最も利用され、誰でも気軽に足を運べる図書館へ観光客の来訪を促すことは、観光活動の多様化、時間消費の場の増加につながり、地域住民との交流を生み出します。

### 2 集客効果を活かし相乗効果の高い観光振興へ

特色・魅力ある建築物やコレクション、イベント・行事、付帯機能（飲食等）による図書館の集客効果を活かし、観光施設等と連携していくことで、観光面でも高い相乗効果を発揮することができます。

### 3 地域にしかない魅力に「気づく、見つける、創る」情報発信の拠点に

地域が観光に取り組む意義の一つは“地域を光らせる”こと。図書館は、地域の知的遺産の集積を活用しながら、情報を「地域の魅力として可視化」していく要の存在です。観光客という外の眼を加えることで、より魅力ある地域づくりにつながります。

**図書館と観光の効果的な連携・融合による地域の観光魅力づくり・活性化**

- 地域魅力の発見・発信
- その地ならではのツーリズム、観光まちづくりの展開
- 観光産業、地域産業の振興

### これからの課題　観光と図書館の連携・融合に向けて

**観光行政や地域関係者との連携**
図書館、行政、民間団体・住民等が、観光と図書館が連携・融合していくことの意義や課題、方向性を共有しながら、観光の中に図書館を活かした施策を推進していくことが必要です。

**観光客が図書館を利用やすい環境づくり**
観光客が訪問地の図書館を利用しやすい環境づくりが不可欠です。そのための利用サービスや仕組みづくりに地域ぐるみで創意工夫していくことが望まれます。

**“地域を想う”ライブラリアンシップ**
図書館員は、人と地域をつなぐコンシェルジュともいえる存在です。地域の貴重な知的遺産を次代に継承しながら、その魅力を伝える気持ちとスキルをもった人材を育てていくことが大切です。

こちらも注目

### 半世紀以上も前に提唱されていた“観光と図書館”

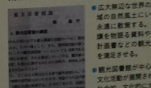
旅行者、観光客のための図書館の必要性。
観光と図書館の連携・融合は、有識者により古くから提唱されており、古くて新しい課題といえます。

**和田萬吉「旅客の為めに図書館」**

ジャパン・ツーリスト・ビューロー『ツーリスト』第六年第五号、1918年9月、pp.17-22
※和田萬吉：東京帝国大学図書館長（当時）

- 遊覧地、鉄道、汽船、ホテル等で小規模な図書館を設けることは緊切。特に遊覧地など旅行者が長期滞在する場所では、旅行者のみならずその地域の繁栄を図る一策となる。
- 汽車、汽船、旅館は、その土地の有志と協力して小図書館の設置に早く着手すべきである。
- 図書の数としてはそれほど多くなくても良いが、まちんと選書したものを置くこと。備えるべき図書としては、その地域の歴史、地理、工芸、産業などの郷土資料が第一。

**南益行「観光図書館論」**



日本図書館研究会編『図書館界』第6巻第3号、1954年1月、pp.109-110

- 広大無辺な世界の観光資源から一地域の自然風土にいたるまで、人類は永遠に都度する。その行く先々の天象に地質など資料の風土保全に関する計画書などの観光資料は、必ず旅人を満足させる。
- 観光図書館が中心となり高度な観光文化活動が展開されるならば、国家・社会的、文化的に大きな効績を創造し、主対象となる観光者の受ける恵益は大きい。
- 資料の種類：観光地図、観光写真、ポスター、絵葉書、郷土風（史・記）料、観光リーフレットなど

ご自由にお持ちください

たびとしょ
～旅の図書館 News Letter～
Vol. 7